

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	ゲームビジネス4	
科目基礎情報					
開設学科	ゲームクリエイター科	コース名	ゲームビジネスコース	開設期	後期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数	60時間
単位数	4単位			授業形態	講義
教科書/教材	講義に使用したスライド、資料の一部をGoogle Classroomを通じて共有する。その他参考資料は講義中に指示、助言する。				
担当教員情報					
担当教員	平林 久和	実務経験の有無・職種	有・ゲーム会社経営者		
学習目的					
<p>この授業を受講する学生はゲームビジネスの全容を俯瞰的かつ統合的に理解できる。その理解を自らのキャリアデザインにいかすことが目的である。</p> <p>この授業は「ゲームビジネスの変化は激しい」という考え方に基づく。(過去の歴史を見ればわかるように)ゲームビジネスの浮き沈みは激しく、成長する新サービスと、衰退するサービスが混在する。ゲーム産業の中で起きるこの変化を洞察するための的確な情報を獲得し、自ら考える力を持つことが本講座の学習目的である。また、3年生には就活指導を行う。</p>					
到達目標					
<p>この授業は、学生が視野を広げて日々起きている社会活動全般に興味を持ち、それがゲームビジネスとどのように関連しているのか理解することを第一の目標としている。また、受講者は新設コースで学ぶ学生でもあるので、「私は何を学び、何を考え、何ができる人なのか?」を対外的にプレゼンテーションするスキルもあわせて養っていく。また、3年生は就活のためのアウトプット作成を行う。</p>					
教育方法等					
授業概要	ゲームビジネスを長期間かけて学ぶ機会をいかすため、本講座で取り扱うテーマは広範である。ゲームを学ぶためには「社会学」「心理学」領域の理解が不可欠で、ビジネスを学ぶためには「経済学」「経営学」の基礎知識は不可欠である。これら難しいテーマをなるべくわかりやすくコンパクトにして授業を行っていく。そして、理解したことを確かなものとするため説明力(アカウンタピリティ)の向上を図っていく。また、この授業では個人ワークやグループワークを採り入れる。				
注意点	<p>下記授業内容の冒頭で「最新産業動向」について簡単な解説を行う。また、毎週簡単な課題発表がある。</p> <p>キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。</p>				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	50%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	レポート	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	20%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画(1回~12回)					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	ゲームとビジネス	ゲーム、ビジネス、最新の産業動向など			
2回	ゲームとビジネス	ゲーム、ビジネス、最新の産業動向など			
3回	ゲームとビジネス	ゲーム、ビジネス、最新の産業動向など			
4回	ゲームとビジネス	ゲーム、ビジネス、最新の産業動向など			
5回	ゲームとビジネス	ゲーム、ビジネス、最新の産業動向など			
6回	ゲームとビジネス	ゲーム、ビジネス、最新の産業動向など			
7回	ゲームとビジネス	ゲーム、ビジネス、最新の産業動向など			
8回	ゲームとビジネス	ゲーム、ビジネス、最新の産業動向など			
9回	ゲームとビジネス	ゲーム、ビジネス、最新の産業動向など			
10回	ゲームとビジネス	ゲーム、ビジネス、最新の産業動向など			
11回	ゲームとビジネス	ゲーム、ビジネス、最新の産業動向など			
12回	まとめ	全体のまとめ			